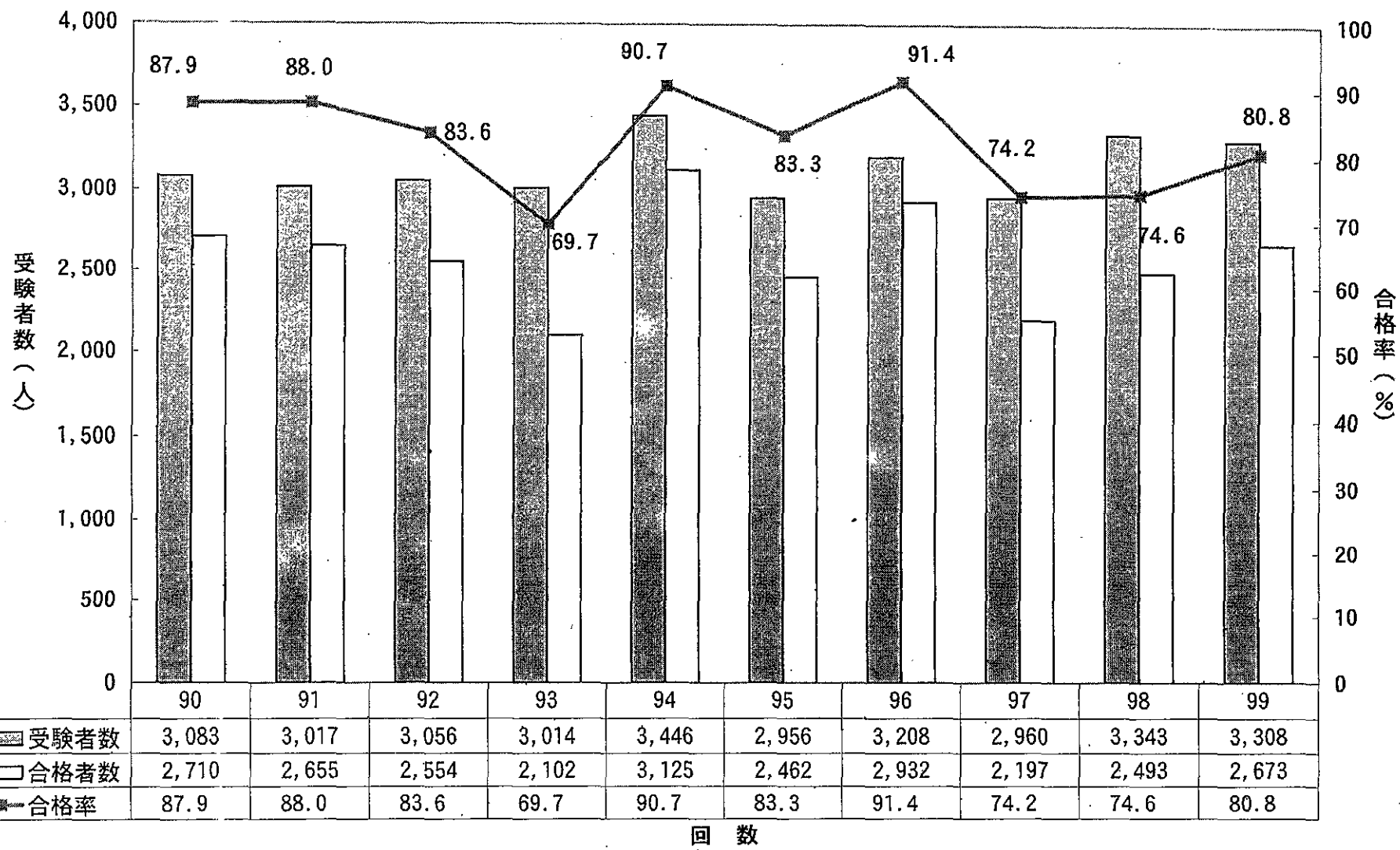


## 歯科医師国家試験の変遷および現状について

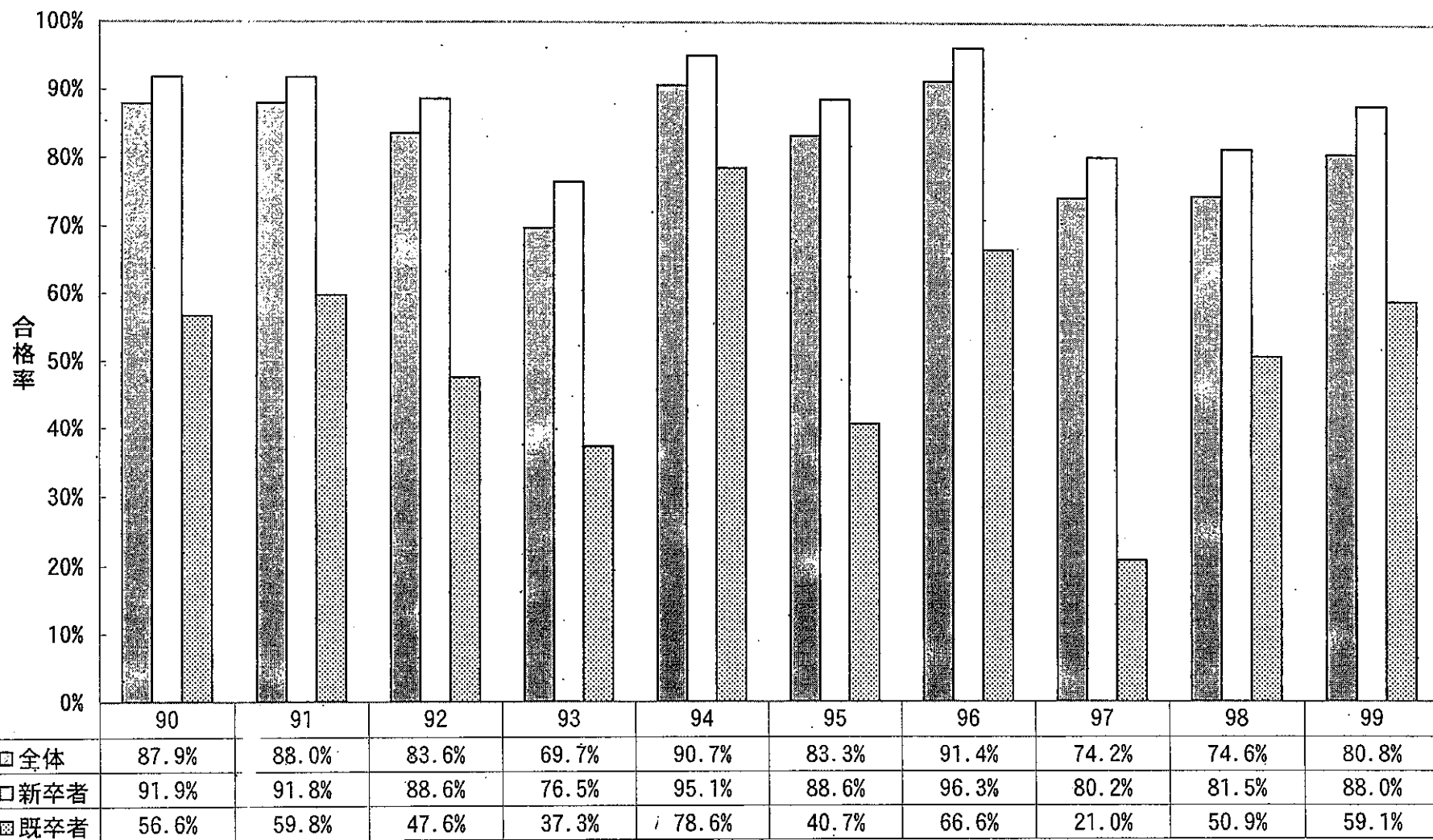
歯科医師国家試験の変遷（第1回【昭和22年】～）

		第1期				第2期				第3期	第4期		第5期	第6期	第7期		第8期	第9期	第10期			
回数		1～2	3～4	5～6	7～12	13～16	17～22	23～30	31～34	35～46	47～58	59～70	71～72	73～78	79～82	83～86	87～90	91～94	95～98	99～		
年		S22	23	24	25～27	28～29	30～32	33～36	37～38	39～44	45～50	51～56	57	58～60	61～H1	2～5	6～9	10～13	14～17	18～		
年間試験実施回数		2回				2回				2回	2回		2回	1回	1回		1回	1回	1回			
筆記試験の実施日数		2.5日	3.5日	2.5日		2日		1日			1日	1日		1.5日	1.5日		1.5日	2日	2日	2日		
試験内容	基礎		2科目	4科目	5科目	3科目			5科目			(臨床系学科に含まれる)				(総論に含まれる)		歯科医学・歯科保健医療総論、歯科医学・歯科保健医療各論（科目別出題の廃止）				
	臨床	学説	5科目（口腔外科、保存、補綴、矯正、口腔衛生）									7科目（左記の5科目に小児歯科、歯科放射線を追加）				8科目（左記の7科目に歯科医学・医療総論を追加）						
	実技（実地）	3科目（口腔外科、保存、補綴）									2科目（保存、補綴）		昭和57年に廃止、昭和58年以降は臨床実地									
	臨床実地	昭和57年以前は実技（実地）試験（昭和57年は実技試験と臨床実地）										15問	60問	60問	80問	80問	100問			105問		
	科目	科目	5	7	9	10	8		10		5	7		7	7	8				平成9年に科目別出題が廃止、平成10年以降は領域別出題		
	設問数	50	70	35	60	32	24		25		15	180	195	260	260	280				280	330	365
	解答	全問			選択	全問	選択			全問	全問		全問	全問	全問	全問	全問			全問	全問	全問
試験方法	解答	論述式											昭和51年以降は客観的多肢選択形式									
	客観式											昭和50年以前は論述形式										
	口腔外科	診査											昭和50年に廃止、昭和58年以降は臨床実地									
	試問											昭和50年に廃止、昭和58年以降は臨床実地										
保存	実技											昭和57年に廃止、昭和58年以降は臨床実地										
補綴	実技											昭和57年に廃止、昭和58年以降は臨床実地										

歯科医師国家試験受験者数、合格者数、合格率推移（第90回～）



歯科医師国家試験新卒既卒者別合格率推移（第90回～）



回数

## 歯科医師国家試験の実施状況について

### 1. 試験の実施

#### (1) 試験日

- 「歯科医師国家試験制度改善検討部会報告書」(平成16年3月)で、歯科医師国家試験の早期化が提言されたことを踏まえ、試験を2月中旬の2日間で実施している。

#### (2) 試験地

- 全国8か所  
北海道、宮城県、東京都、新潟県、愛知県、大阪府、広島県、福岡県

#### (3) 試験時間

- 1日あたり5～6時間  
1日目：10:00～12:35、14:00～16:40(計：5時間15分)  
2日目：10:00～12:40、14:00～17:00(計：5時間40分)

### 2. 試験問題

#### (1) 出題区分

- 出題総数は365題である。(必修問題50題、一般問題210題、臨床実地問題105題)

#### (2) 出題内容

- 試験問題は、臨床上必要な歯科医学又は公衆衛生に関し、歯科医師として具有すべき知識、技能について広く一般的実力を試し得るものとされている。
- 具体的な出題範囲は「歯科医師国家試験出題基準(ガイドライン)」(平成18年版)に準拠している。各領域毎のおおよその出題数は、ブループリントに準拠している。

### 3. 試験問題の作成

- 試験委員会が問題の作成・修正を行って出題している。
- 試験後に医道審議会歯科医師分科会K・V部会において問題の妥当性を検討している。

### 4. 合格基準

- 「歯科医師国家試験制度改善検討委員会報告書」(平成12年8月)、「歯科医師資質向上検討会報告書」(平成15年12月)での提言を踏まえた合格基準が運用されている。
  - ・ 必修問題、一般問題、臨床実地問題の各々の得点と禁忌肢選択率、基準点以下の領域数をもって合否を決定。
  - ・ 合格基準の基本的な考え方としては、必修問題の合格基準は絶対基準を用いて最低合格レベルを80%以上とし、一般問題・臨床実地問題の相対基準を用いている。
- 報告書を踏まえ、「医道審議会歯科医師分科会」において合格者の決定方法について審議を行った上で、同分科会の意見を踏まえ厚生労働大臣が合格者を決定している。

(例) 第99回歯科医師国家試験の合格ライン

必修問題及び一般問題を1問1点、臨床実地問題を1問2.5点としたとき、

- ① 必修問題については、40点以上  
ただし、必修問題の一部を採点から除外されたことにあつては、必修問題の得点について総得点の80%以上とする。
- ② 一般問題、臨床実地問題については、  
一般問題は、146点以上  
臨床実地問題は、185点以上
- ③ 禁忌肢問題選択数は、1問以下
- ④ 基準点以下の領域数は、0領域とする。

## 5. 試験結果等の通知・公表

### (1) 試験結果

- 受験者数、合格者数及び合格ラインについては、合格発表と同時に公表している。
- 個人の試験結果については、受験者に郵送で通知している。

### (2) 問題及び正答

- 良質な試験問題を繰り返し出題するために平成14年から試験問題の回収を行ってきたが、内閣府情報公開・個人情報審査会の答申を受け、平成18年から試験問題の持ち帰りを認めることとなった。また、厚生労働省のホームページに試験問題及び正答を掲載している。

## 6. プール制の実施

- 「歯科医師国家試験制度改善委員会報告書」(平成12年8月)で、全国の大学歯学部、歯科大学に試験問題の作成について協力依頼を行うことが報告された。
- 公募された問題については、試験委員がそれぞれ問題の修正や評価を行っている。
- プール問題の蓄積を進め、徐々にプール制への移行を図っている。

(注) この資料は、第99回歯科医師国家試験の実施状況を基にまとめたものであり、今後の国家試験の実施については、歯科医師国家試験制度改善検討部会報告書を踏まえ、毎年医道審議会歯科医師分科会が決定することとなる。